



## 1. 活動概要

### 1.1 活動方針

CMED会では、平成31年4月施行の「働き方改革関連法」を遵守するため「4週8休」が可能な工期設定への理解と、現場から多く寄せられるダム工事の採算性の向上を目指して、国交省の本省、各地整、ダム技術センター、水資源機構、建設コンサルタンツ協会等との意見交換を行っている。

令和4年度当部会においては、「ダム工事積算資料の一部改訂について」ならびに「令和3年度国土交通省土木工事・業務の積算基準等の改定」を適切にダム工事積算に反映するための課題とその解決案を整理する。それをもとに、上記意見交換の中で、関係者に情報発信し、共有改善を図る。

今後においても、意見交換会を重要な取り組みの柱として継続していくことが大切と考えている。



### 1.2 活動内容

#### ①意見収集

- ・地区研修会討議にて意見収集

#### ②意見交換会資料の作成

- ・上記意見他を集約、整理した「令和3年改訂のダム工事積算の解説をふまえたリフトスケジュール作成時の課題と対応(案)」を作成

#### ③水平展開

- ・関係機関への情報発信：意見交換会(上記資料を共有)
- ・会員への情報発信：HPや地区研修会説明  
諸経費動向調査、労務費調査の対応改善





## 2. 活動状況

COVID19の影響が残る中でも、日本ダム協会ならびにCMED会一体となって取組み、関係各所のご理解も得ることで、令和4年度は対面を主体として意見交換会を実施できた。

### 2.1 「地区研修会(立野ダム)」での意見交換

討議テーマ『ダム現場における問題点』 (R4.11.17)

全国から対面を基本に出席(27名)いただき開催

- ・「令和3年改訂のダム工事積算の解説(2交代制の場合は拘束時間18時間、賃金対象時間16時間等々)をふまえたリフトスケジュール作成時の課題と対応(案)」の共有、意見収集
- ・働き方改革の影響低減を図る新技術の検討
- ・常任幹事会に求めること

### 2.2 関係機関との意見交換会

テーマ『ダム現場における問題点』検討部会報告

～今回の改定をふまえたリフトスケジュール作成時の課題と対応(案)～

- ①(一社)建設コンサルタンツ協会 (R4.12.1)
- ②(一財)ダム技術センター (R4.12.13)
- ③(独)水資源機構 (R5.3.1)



### 2.3 国土交通省 地方整備局との意見交換 (対面・WEB併用他)

R4年10月25日	四国地方整備局
11月21日	関東地方整備局
12月5日	北陸地方整備局
12月7日	九州地方整備局
R5年1月11日	近畿地方整備局
1月16日	東北地方整備局
2月6日	中部地方整備局
2月9日	中国地方整備局
2月16日	沖縄総合事務局
3月16日	北海道開発局

### 2.4 国土交通省 本省 水管理・国土保全局 治水課との意見交換 (対面・WEB併用他)

- ・諸経費動向調査書式の改善、リフトスケジュール作成時の課題と対応(案)、働き方改革の影響低減を図る新技術の検討等

4回実施(R4年 6月16日・9月29日・12月22日・R5年2月15日)





## 2.6 国土交通省との意見交換会について

### 参加者(例)

〇〇地方整備局	CMED会
河川部長	会 長 黒木 博
河川工事課長	副会長 内藤 明
河川計画課長補佐	副会長 佐藤 公治
河川工事課長補佐	副会長 長谷川 悦央
建設専門官	常任幹事 数名
計画第二係長	日本ダム協会
機械設備係長	光成専務理事 他
ダム係長	
調査指導係長	
ダム管理係長	

(整備局ごとに出席者は異なる)

**【対面・WEB併用】**



## 2.7 活動経過

「意見交換会での情報発信・共有・改善(以下に概要を示す)」

【令和3年改訂のダム工事積算の解説(2交代制の場合は拘束時間18時間、賃金対象時間16時間等々)をふまえたリフトスケジュール作成時の課題と対応(案)】を整理した。その一部概要を以下に示す。

- ① 交代制と拘束時間
  - ・賃金対象時間の定義(2交代制の2方目が8時間に満たない場合も8時間とする)
- ② 降雨制限・温度規制・洪水による影響日数
  - ・当該地域における過去10年の実績データから平均値を算出し、休日等との重複日数、洪水が発生した場合の復旧に要する休止も考慮
- ③ RCD(巡航)・CSGにおける日々打止めとなる端部処理、最終転圧時間の考慮
  - ・日最大実打設時間 $\leq$ 賃金対象時間(16h)-付帯時間(1h)-端部処理( $\alpha$ h)-残部分の転圧時間( $\beta$ h) = (15- $\alpha$ - $\beta$ )h
  - とし、日々発生する休止のための処理時間考慮したリフトスケジュールとする
- ④ リフト分割数
  - ・1リフト分割数=リフトのコンクリート数量 $\div$ 当該リフトの日打設設量(小数点以下切り上げ)
- ⑤ CSG打設サイクルとその他関連工種の工程への反映
  - ・CSG打設サイクルと保護コンクリートの養生時間を検証し最適な打設サイクルにする必要がある。
  - ・岩盤スケッチ等打設関連以外の工程とのバランスも考慮





### 3. 令和4年度の活動成果と令和5年度の活動予定（案）

項目	内容
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和3年ダム工事積算基準の改定をふまえたリフトスケジュール作成時の課題と対応(案)を、国交省の本省、各地整、ダム技術センター、水資源機構、建設コンサルタンツ協会に情報発信し、令和5年度の改定につながる意見交換を行った。</li><li>・コロナ禍においても最大限の対策を行って、施工中現場で対面の地区研修を開催した。</li></ul>
令和5年度の活動に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ対策緩和を見据えた各機関との意見交換会、地区研修会への対応</li><li>①会員各社のCIMやICTの現場適用状況と効果をアピールする必要がある</li><li>②「令和5年度国土交通省土木工事・業務の積算基準等の改定」への対応</li><li>③今後増加する再開発工事の積算体系の確立</li></ul>
令和5年度の活動予定（案）	<ul style="list-style-type: none"><li>・各機関と協議し、対面実施を要請、以下について意見交換を活性化させる</li><li>①適用事例を紹介し、課題や効果、今後の推進方策</li><li>②令和5年度改定の分析内容、ダム工事への適用方針と問題点、解決策</li><li>③再開発工事の積算を確立させるための方策</li></ul>

